

《原 著》

^{99m}Tc-sestamibi 心拍同期心筋シンチグラフィを用いた
急性心筋梗塞における局所壁収縮能異常に関する検討
Wall Thickening および Regional Ejection Fraction による
罹患冠動脈検出能について

中條 秀信* 汲田伸一郎* 水村 直* 趙 圭一*
木島 鉄仁* 隈崎 達夫* 佐野 純子** 草間 芳樹**
宗像 一雄**

* 日本医科大学付属病院放射線科
** 同 第一内科

要旨 急性心筋梗塞 45 例に対し ^{99m}Tc-sestamibi を用いた心拍同期心筋シンチグラフィを施行し、局所心筋収縮能として Wall Thickening (WT), Regional Ejection Fraction (rEF) を算出、両解析法による罹患冠動脈狭窄検出能を視覚的、定量的に比較検討した。両解析法における罹患冠動脈検出能は概ね良好であった。WT は rEF に比べ視覚的評価による梗塞部責任冠動脈検出能が有意に高く (84.0% vs. 64.0%, $p < 0.05$)、罹患動脈全体で感度、精度が有意に高く (80.3% vs. 59.1%, $p < 0.05$, 86.7% vs. 74.8%, $p < 0.05$)、WT の有用性が示唆された。また定量的評価での罹患冠動脈検出能は視覚的評価と同等の結果であり、罹患冠動脈自動検出の可能性が示唆された。WT は非梗塞部罹患冠動脈検出能が定量的評価で感度が rEF に比べ有意に高く (75.0% vs. 31.3%, $p < 0.05$)、rEF では検出できない軽度の心筋障害が検出可能であることが示唆された。

(核医学 36: 435-443, 1999)